

北海道青年革新懇ニュース

10月28日

第三回北海道青年フェスタ

～ただ、ひとえに「人間」らしく～

北海道青年革新懇も実行委員会に加入している第三回北海道青年フェスタが10月28日札幌で開催されました。稚内・北見・函館など全道各地から50人の青年が参加し、革新懇の会員も多数参加しました。

基調講演では神保大地共同代表が「憲法は個人の尊重を最も大切にしている。しかし、今の政治は大企業が個人よりも優先されている」と指摘し、「憲法には私たちがすべきこと、やる事が書かれています」と団結して政治を変えていこうと呼びかけました。



↑ 神保共同代表の基調講演の様子

参加者の実態交流では、切実な青年の実態が出されました。母子家庭の学生は、「奨学金を月10万、卒業までに480万円借りたら、利子を含めて640万円を返さないといけなくなるので、奨学金を借りることも難しい。お金がないから勉強をしたい夢が断たれるのはおかしい」と。保育士の青年は「子どもの成長が見られるのが

うれしい」と仕事へのやりがいを語ります。しかし、「休憩時間も事務仕事で、お茶を飲む時間もない。家に仕事を持ち帰って、自分の時間も取れない。子どもの親の働き方も大変で、保育時間が過ぎても子どもを迎えに来ることができない人もいる」という実態の深刻さも。

被災地で大企業の身勝手な雇い止めとたたかい、撤回させたソニー労組仙台支部派遣・期間社OB会からも2人が集会にかけつけました。「明日、食べるご飯がわからないときに、首を切るのが人間のすることか」とたたかいに立ち上がったときのことを紹介し、「勝ち取った成果を風化させたくない。そのためにOB会を結成し、自分達がもらった勇気を伝え、安心して働ける社会をつくりたい」と。集会後のパレードは自分たちでつくったグッズやコール、楽器の演奏などで盛り上がり、沿道からの飛び込み参加もありました。(Y)



← パレードの先頭を歩く柿田事務局長